

「山梨 芸術 高校生 最高」の検索結果はこちら

～第43回山梨県高等学校芸術文化祭～

月見草

特別版

発行所

山梨県高等学校文化連盟

新聞専門部

韭崎工業高校新聞委員会

甲府第一高校新聞部

甲府西高新聞部

都留高校新聞同好会

芸術祭 復活のパレード

11月10日に「山梨 芸術 高校生 最高」の検索結果はこちら」のテーマのもと第43回山梨県高等学校芸術文化祭が開催された。パレードとグラウンドステージは、ともに3年ぶりの開催となった。コロナウイルスの規制が緩和されて、山梨県の高校生の活躍を身近で感じることができた。良い機会となった。

特に、午前中に行われたパレードでは、街中を歩くこと自体で様子をみている人やカメラを構える人達もいた。街頭インタビューでは「高校時代の追体験が出来るのが良かった気がする。」30代女性、「昨年は行われなかったパレードは吹奏楽部に所属する高校2年生の孫にとっても初めてのことであるので開催されたのが嬉しい。」70代女性などの声を聞くことができた。

また、今回の芸術祭が無事に成功した要因として、芸術祭を支えてくださった方々の努力があげられる。パレードの第一梯団の後方確認を担当した日本航空高校の池田周平教諭の31歳は、「部活動は運動部が主で文化部の活動は影に隠れてしまう場面が多々あります。



街中でのパレードの様子

芸術祭一丸となり無事成功

山梨県高等学校文化連盟理事長の秋山すみ江（甲府西・教頭）先生にお話を伺いました。

Q 3年ぶりの開催となったこの芸術祭にどのような想いがありますか？

A 私自身が携わらせていただくことが初めてだったので、どのように進めたいのかかわらなかつたのですが、まずは開催できたことにとっても安心しています。新型コロナウイルスの影響で高校生の文化活動が止まっていたので、なんとか動かしそうと周りの先生方や生徒たちと協力して開催することができました。

Q 見どころ、ポイントなどを教えてください。

A 各専門部が、「観客のいる環境で発表できる」という思いを背負って取り組みました。書道、写真、チアダンスなど、様々な部活動の発表を楽しんでほしいです。

Q コロナ禍での開催で苦労したところはありますか？

A 3年ぶりの開催ということで、芸術祭を経験した生徒も少なく、事務の仕事もあいまいな事があり大変でしたが、苦しいことを乗り越えて生徒が動く第一歩こなればよいと思い頑張りました。



インタビューに応じる秋山先生

マスク越しの笑顔 再び

パレード部団の花形ともいえる各校のチアリーディング部に取材を行った。

山梨学院高校のチアリーダー部は定番のボウボンではなく可愛く使用している。また、列ごとの色の違いも出していた。「今回のパレードではそのリングの使用を特に目立させ、頑張りたい。」と意気込みを語ってくれた。「2023年コロナ禍で活動が制限されることもあり

と思います。しかし、文化部にも秀でた実力を持つ部はいくつもあります。そのようなことを芸術祭を通して多くの方々に知ってもらいたいのです。また、同時に心を育む芸術にも興味を持つてほしいです。」と語ってくれた。また、パレード行進の手伝いを担当した韭崎高校勤務の小田雄仁教諭44歳は「今までコロナウイルスの影響により芸術祭はオンライン上で行われ、審判員がいない状況で行った。しかし3年ぶりに実際に生徒が来て行う芸術祭が開催され、とても興味があると思いました。」と語ってくれた。



街中を盛り歩く甲斐郡高校チアリーダー部

東海大学付属甲府高校チアダンス部はこのパレードを「チーム全体で笑顔で頑張りたい。」と意気込んでいた。「今回の演技のポイント、2年生が考えたオリジナルの振り付け」と笑顔で話してくれた。チアという笑顔で元気な言葉をイメージだが、コロナ禍でマスクの下が見えなくなると、練習しているうちに「マスクをしても笑顔が伝わるようにと協力して練習してきた」と語ってくれた。笑顔で真剣に答えてくれた東海大学付属

向上心を胸に

甲府一高吹奏楽部

今回、パレードに参加した甲府第一高校吹奏楽部。部長掛川雲安さんにパレードでの活躍について話を伺った。

Q 吹奏楽部について教えてください。

A 私たち吹奏楽部は先輩方から引き継がれてきた「向上心」という目標と共に、誰からも愛される部活を目指して日々活動しています。

Q 部活動全体で大事にしていることはありますか？

A 今年はコロナによる規制も少なくなってきたので、今まで制限していた返事を最近はそのようにしています。返事をすることで、部員同士も高まり雰囲気も良くなりました。

Q 芸術祭（パレード）ではどのような曲を演奏しましたか？

A 今回演奏したのは「アンメ・ワルツ」が馴染みの「ワインナー」

記者の目

グラウンドステージにおいで甲府西高吹奏楽部が「古典の日」の紹介をした。「古典の日」は11月1日であり、2022年に制定された。風土や歴史に根ざした古典について、今一度目を向けてその良さを考え直し、世界の文化に深く心を通わせようというものだ。グラウンドステージに参加した2年部員大川十尋さんは「多くの人が古典の魅力に目を向けて頂ければ嬉しいです。グラウンドステージでの発表はとても良い経験になりました。」と語った。

とアニメ血海戦線のエンディングテーマである「シユカリーニングとピターステップ」、Alexandrosの「ワタリドリ」です。どれもアツペンポで楽しい曲です。

Q パレードに向けての練習について教えてください。

A 今年3年生が引退し、新体制で行う初めてのポップスでした。ポップスならではの発音の仕方や音の切り方などかっこよく聞かせるように工夫し、たくさん練習しました。

Q 部長さんについて教えてください。

A 一高吹奏楽部は歴々のある部活で、部長という役目は自分には荷が重いなと感じていました。ですが、部員の方を信じながら頑張っています。



演奏する甲府第一高校吹奏楽部



各合唱部による「甲斐は故郷」

3年ぶりの交流

～ 時を超えてつなぐ芸術 ～

第43回山梨県高等学校芸術文化祭のパレード、グランドステージが11月10日に行われた。午前中には高校生によるパレードが行われ、午後からはYCC県民文化ホールでグランドステージが行われた。『「山梨 芸術 高校生 最高」の検索結果はこちら』のテーマのもと、各学校の文化部の発表や学校と専門部の枠を超えた合同発表を披露した。この芸文祭を通して県内の高校生が日々の活動の成果を発表でき、専門部同士の交流を深めた。

文化祭の大きな行事とも言える芸術文化祭は3年ぶりに県内の多くの高校生が参加した。開会行事として各学校の高校生たちが、部活の垣根を越えて、作り上げる「パレード」と「グランドステージ」があり、午前中に行われたパレードでは甲府の街をパトントワリング部やマーチングバンド部をはじめとするおよそ240人の高校生が参加した。グランドステージ第一部では、合同オーケストラによるオーブニング演奏で幕を開けた。式典は、主催者挨拶、来賓祝辞、激励の言葉、生徒代表挨拶、表彰が行われた。そして、加盟校校旗・専門部紹介がスクリーンに流れ、生徒開会宣言のあと、ファンファーレ、合唱専門部による合同合唱をした。第二部では、文学専門部、社会科学専門部によるスライドを使っての発表、器楽管弦楽専門部の演奏が行われた。

宣言の初めは芸文祭に参加した高校の校旗や、専門部の27の身延山高校手話コミュニケーションション部後藤謙華さん(3年)にインタビューを行った。手話をするときは感情を込めたいと、表情を大切にすることを、手話を大きく表現することです。耳が不自由な方にとって、最近ではマスクで顔が見えないため特に注意しています。手話をするときは、姉がもともと手話部に所属していたので、何か困っていたら、何か困って

手話コミュニケーション部 事前インタビュー

ある人の助けになりたいと思っていたからです。手話コミュニケーション部は、現在ほりて活動していて、小中学生に手話を教えるに行ったり、インスタグラムを開設して簡単な手話を広めたりしています。また、高校生ポフンティアアワードという大会にも出場しています。一夫一妻と思っているとは、相手に手話を届けられるように分かりやすく表現することで



「アイラブユー」の手話をする身延山高校

一人でも多くの方々に、特に若い世代に手話を広めていくことです。また、感情表現も豊かにすることが大切です。

部会が紹介された。その後甲府南高校生徒会長の後藤一輝さんによって、「今年の芸術文化祭が人々を癒し、勇気づける機会になってほしい」と開会宣言がされた。最後は今年度の全日本吹奏楽コンクールで西関東大会に出場し、銀賞を獲得した都立高校吹奏楽部が「トゥエルフ・ファンファーレ」の演奏を行い開会宣言は幕を閉じた。開会宣言を行った後藤一輝さんは「ステージに立った時が一番緊張し、しっかり役割を果たせるか

不安だったが、大人たちを前にして発表をするというこの経験を糧に生徒会長としてさらなる成長をしていきたい」と述べていた。合唱専門部による合唱曲「甲斐のくに賛歌」から「甲斐は故郷」と、山梨県高文連賛歌「明日を見つめて」が合同オーケストラとともに披露された。その際、身延山高校の生徒から講習を受けた手話を用いて全観客が参加する企画が設けられた。ホール内が同じ動作での表現によって一体感に包まれた。

ない。そして、ほかに美味しいお米はないかと考えたとき、榎田米というお米に出会った。徳川家康より賜った御領榎田における集落、農村には結という助け合いの文化があり、榎田米はきれいな水で昼夜の寒暖差が大きいことからデンプンが多く含まれ、とても美味しい。しかし、榎田の現状は森林化、労働不足、認知度の低下で保存が困難となっている。そこで、榎田

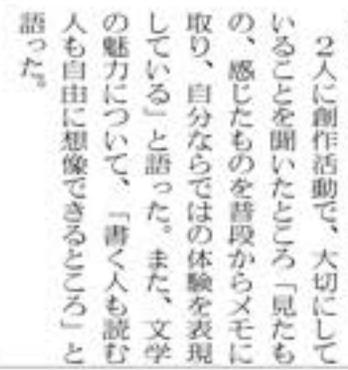
榎田の保存と結び 米

を守るために、実際に榎田一角のオーナーとなり米作りを経験。多くの人に榎田を知ってもらうために、現在、地元の榎田で作ったお米でおむすびを作り、地元で販売することを企業と連携して進めている。

第二部交流ステージで、文学専門部活動紹介を、甲府第一高校の藤原楓奈子さんと小野利水さん(ともに2年)が行った。発表の内容は、8月に東京都で行われた全国総文祭に参加し、文学研修で松尾芭蕉ゆかりの地を訪ねたことや、交流会で「詩とは何か」について、意見交換したことを報告した。その後、甲府一高文学部の日々の活動が紹介された。通常の活動は各自が自宅で、勉強の合間に

文学の魅力伝えたい

フレッシュとして、創作活動を行っている。また、2人ずつ担当を決め、「今週の一句」として、短歌を校内に掲示している。その他、私設図書館として「二高一冊堂」を設置、運営を行っている。藤原さんと小野さんは実際に、わかりやすく説明した。2人に創作活動で、大切にしていることを聞いたところ「見たものの、感じたものを普段からメモに取り、自分ならではの体験を表現している」と語った。また、文学の魅力について、「書く人も読む人も自由に想像できるところ」と語った。



6種類のギターによる合奏

圧巻の合奏

器楽管弦楽専門部からは北杜高等学校ギター部による演奏が行われた。牧田いくみ先生の指揮のもと「王土人の望みの喜びよ」「ひまわり」「森の贈り物」「情熱大陸」の順で4曲の合奏を披露した。「王土人の望みの喜びよ」は、ハッハがカントーラ(音楽曲)として作曲したものをギター用に編曲した。遠近感のある美しい響きがホール中にこだまっていた。葉加瀬太郎が作曲した「ひまわり」は、序盤は静かに始まるが、サビではひまわりのように力強く輝く音色が響いた。3曲目の「森の贈り物」はもともと吹奏楽の曲であったものをギター用に作り直した。今年度の川崎市で行われた全中学校ギター合奏コンクールでは金賞と審査員特別賞を受賞した。最後に演奏された「情熱大陸」は北杜高校で代々引き継がれてきた曲であり、冒頭のソロの部分は毎年弾き手によってアレンジがされている。今年は決めの力強い曲調であった。